

2021 年度 医療科学部 IR 報告書

2020 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)



藤田医科大学 | IR推進センター
医療科学部・保健衛生学部 | IR分室

2021 年 12 月 23 日

藤田医科大学 I R 推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR 分室

2021 年度 医療科学部 I R 報告書

2020 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2021 年度 医療科学部 IR 報告書

「2020 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、2020 年度の医療科学部の卒業生を対象とした医療科学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2021 年 12 月 23 日

2021 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
南 一幸、日比谷 信、石川浩章、小林正尚、武藤晃一、世古留美、山田晃司、
大塚 圭、鈴木めぐみ、武田和也、井上知重、島向健太

目次

1. 分析結果の概要	1
2. ディプロマ・ポリシーについて	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度	5
3-1) アンケート調査方法	5
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析	7
3-2-1) 学部全体としての分析	13
3-2-2) 学科間の比較	13
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析	16
3-3-1) 臨床検査学科	16
3-3-2) 放射線学科	18
3-3-3) 臨床工学科	20
3-3-4) 医療経営情報学科	22
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度	24
4-1) アンケート調査方法	24
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	24
4-2-1) 臨床検査学科	24
4-2-2) 放射線学科	28
4-2-3) 臨床工学科	32
4-2-4) 医療経営情報学科	35
5. 参考資料	39

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、2020 年度医療科学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・分析を行った。

201 施設にアンケート調査を実施し、111 施設から回答が得られた（回収率：55.2%）。医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では、8 項目の評価平均値はほぼ等しく、設問間で大きな相違は認めなかった。「コミュニケーション」、「責任行動」、「専門知識」、「倫理教養」に関する項目が「最低水準は修得できている」以上であると高く評価された施設が多かったが、「国際解決」に関する項目の評価は他の項目より低かった。しかし、すべての設問で「最低水準は修得できている」より高く評価された施設がほとんどであった。また、学生の自己評価と比較すると、就職先管理担当者の評価は若干低い傾向にはあるが、大きな相違は認めなかった。学科間で比較すると、臨床工学科が他の学科に比べて就職先施設評価の平均値が低く、学生自己評価の平均値が高い傾向にあり、その差が大きかった。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、すべての学科で各ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、「最低水準は修得できた」以上と回答した施設がほとんどであり、「ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と回答した施設はわずかであった。上述の傾向は、これまでの卒業生とほぼ同様であった。

以上の結果より、すべての学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、医療科学部における教育は持続的に質を高く保てている状況であると判断できた。しかし、学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価において、他の項目に比べて評価が低い項目がある。今後は自ら考え判断する力やグローバル化に関する要素をさらに強化するとともに、就職先のニーズに応えられるような教育内容の改善について検討を継続する必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけていべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2020 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表 2-1 に示す。

表 2-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。

(態度)

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
 - 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

医療科学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。医療科学部の臨床検査学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、放射線学科を表2-3、臨床工学科を表2-4、医療経営情報学科を表2-5に示す。

表2-2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、臨床検査学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（保健衛生学）』の学位を授与します。
卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、臨床検査学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能を有する。
 - 2) 生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができる。
 - 3) 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができる。
 - 4) 地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができる。
 - 5) 常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。
 - 6) 研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、国際的視野を持ってグローバルに活躍する意志と積極性を有する。
 - 7) 科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を有する。
-

表2-3. 放射線学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、放射線学科に4年以上在学し、卒業要件を満たした学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。
放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけている。
 - 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
 - 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
 - 4) 診療放射線技術学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができる。
 - 5) 医療科学における真理の探究心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野
-

を有する。

表 2－4. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、臨床工学科に 4 年以上在学し、授業科目により卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（臨床工学）』の学位を授与します。

卒業試験は、下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、臨床工学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得している事になります。

- 1) 臨床工学技術領域に従事するために必要な知識・技能を身につけている。
 - 2) 安全な医療を行うために医学知識と工学知識を統合して判断できる。
 - 3) 国際社会のニーズにも対応し、生涯学び続ける姿勢を堅持できる。
 - 4) 高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもつことができる。
 - 5) 臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することを目的に、未来を指し示すリーダー力を備えている。
-

表 2－5. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、医療経営情報学科に 4 年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（医療経営情報学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、医療経営情報学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力を身につけている。
 - 2) 医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。
 - 3) 社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲を身につけている。
 - 4) 医療経営情報学を修めた学生として、以下の専門性を身につけている。
 - (1) 診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力を身につけている。
 - (2) 診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。
 - (3) 医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。
 - (4) 経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力を身につけている。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

医療科学部の2020年度卒業生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した（依頼文は「5. 参考資料」に掲載）。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式またはWeb回答方式（Google フォームを利用）のいずれかで、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計8項目）を設問として、それに対する就業者（2020年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）について表3-1に示す。

アンケート調査項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

臨床検査学科	時期：8/6(金)～9/30(木) 手順：郵送 調査施設数：77 施設 第1教育病院、2教育病院含む
放射線学科	時期：8/6(金)～9/30(木) 手順：郵送 調査施設数：69 施設 第1教育病院、第2教育病院、第4教育病院含む
臨床工学科	時期：8/6(金)～9/30(木) 手順：郵送 調査施設数：33 施設 第1教育病院(1部)含む
医療経営情報学科	時期：8/6(金)～9/30(木) 手順：郵送 調査施設数：22 施設 第1教育病院、第2教育病院、第4教育病院含む

表 3－2. アンケート調査の設問項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学習内容について知識が習得できていますか？
DP 2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身についていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか？
DP 4 (国際解決)	国際的な視野に立ち、倫理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか？
DP 5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになっていきますか？
DP 6 (責任行動)	患者および住民の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになっていきますか？
DP 7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用することができるようになっていきますか？
DP 8 (コミュ力)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか？

表 3－3. アンケート調査に用いた到達度の評価尺度（6 段階）

6：完全に修得できている
5：概ね修得できている
4：最低水準は修得できている
3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない
2：十分に修得できていない
1：全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2020 年度医療科学部卒業生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率	回収率 (昨年度)
臨床検査学科	57.1% (44/77 施設)	66.1%
放射線学科	50.7% (35/69 施設)	56.5%
臨床工学科	60.6% (20/33 施設)	71.4%
医療経営情報学科	45.5% (10/22 施設)	64.3%
計	54.2% (109/201 施設)	64.3%

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表 3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

DP1 (専門知識)						DP2 (倫理教養)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	3	3	0	0		6	7	3	0	0	
5	24	16	4	6		5	19	13	6	4	
4	14	12	12	3		4	15	13	10	5	
3	2	3	3	0		3	3	5	4	0	
2	1	0	1	0		2	0	1	0	0	
1	0	0	0	1		1	0	0	0	1	
n	108	44	34	20	10	n	109	44	35	20	10
DP3 (科学行動)						DP4 (国際解決)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	5	3	0	1		6	3	3	1	1	
5	16	11	3	2		5	4	5	1	2	
4	16	16	10	6		4	17	20	8	6	
3	7	4	7	0		3	16	4	9	0	
2	0	1	0	0		2	2	2	1	0	
1	0	0	0	1		1	0	0	0	1	
n	109	44	35	20	10	n	106	42	34	20	10
DP5 (生涯学習)						DP6 (責任行動)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	4	5	1	1		6	6	5	1	0	
5	16	7	5	4		5	20	14	6	4	
4	14	18	10	4		4	15	15	11	5	
3	9	3	3	0		3	2	1	1	0	
2	1	2	1	0		2	1	0	0	1	
1	0	0	0	1		1	0	0	0	0	
n	109	44	35	20	10	n	108	44	35	19	10
DP7 (専門技能)						DP8 (コミュカ)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	6	4	0	0		6	8	5	1	2	
5	18	13	3	5		5	16	16	9	4	
4	15	14	11	4		4	15	12	9	2	
3	4	4	5	0		3	4	1	1	1	
2	1	0	1	0		2	1	1	0	1	
1	0	0	0	1		1	0	0	0	0	
n	109	44	35	20	10	n	109	44	35	20	10

※ 回収されたアンケート調査票のうち、臨床検査学科の2施設と放射線学科の1施設において DP4、放射線学科の1施設において DP1、臨床工学科の1施設において DP6 が未回答であった。

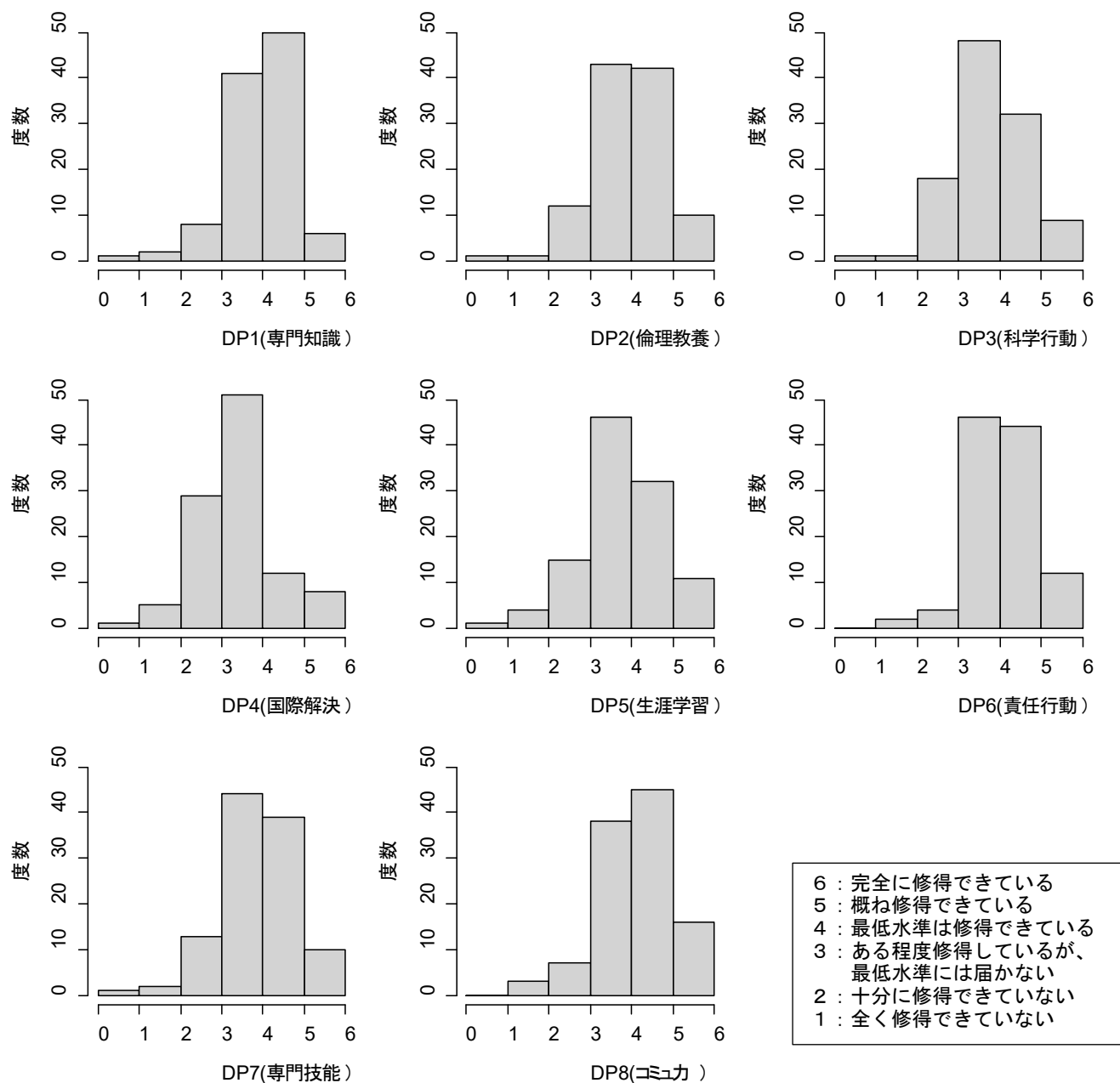


図3－1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

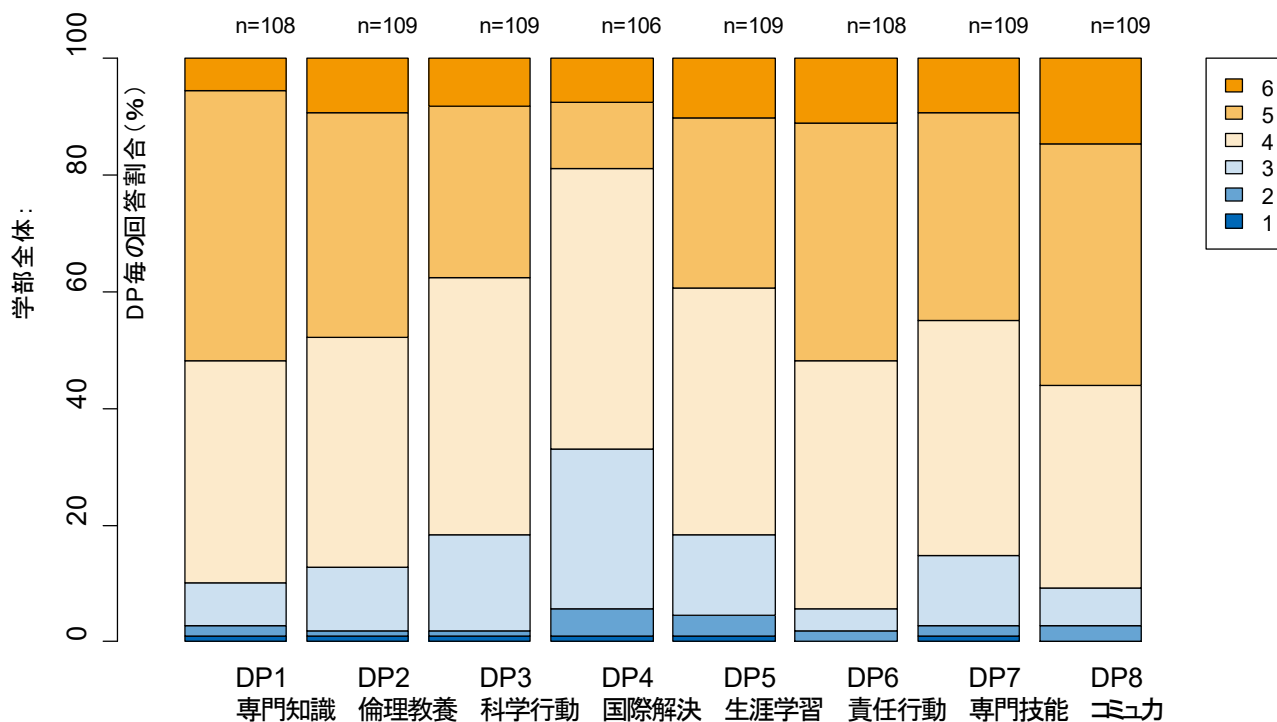


図3－2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較した。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3－6に示す。

DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3－3に示す。DP1～DP8は、医療科学部・保健衛生学部 IR 分室より2021年6月10日に報告された「2021年度医療科学部 IR 報告書 —2020年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表3－4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図3－3に示す。

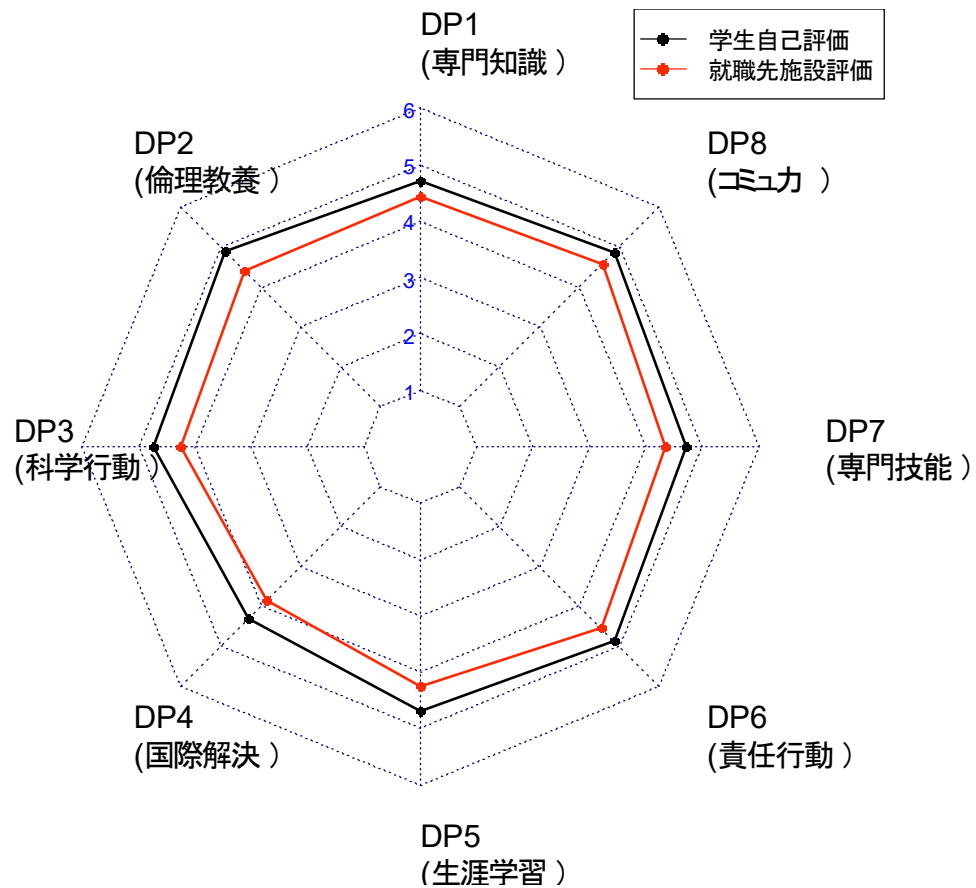
表 3－6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

DP1 (専門知識)						DP2 (倫理教養)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.44	4.59	4.56	3.95	4.30	平均値	4.41	4.68	4.34	4.10	4.10
標準偏差	0.85	0.78	0.77	0.74	1.19	標準偏差	0.90	0.82	0.92	0.70	1.14
中央値	5	5	5	4	5	中央値	4	5	4	4	4
最大値	6	6	6	5	5	最大値	6	6	6	5	5
最小値	1	2	3	2	1	最小値	1	3	2	3	1
n	108	44	34	20	10	n	109	44	35	20	10

DP3 (科学行動)						DP4 (国際解決)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.25	4.43	4.31	3.80	4.10	平均値	3.87	3.76	4.09	3.60	4.10
標準偏差	0.92	0.89	0.89	0.68	1.22	標準偏差	0.97	0.95	0.92	0.86	1.22
中央値	4	4	4	4	4	中央値	4	4	4	3.5	4
最大値	6	6	6	5	6	最大値	6	6	6	6	6
最小値	1	3	2	3	1	最小値	1	2	2	2	1
n	109	44	35	20	10	n	106	42	34	20	10

DP5 (生涯学習)						DP6 (責任行動)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.26	4.30	4.29	4.10	4.30	平均値	4.56	4.64	4.66	4.37	4.20
標準偏差	1.00	0.97	1.00	0.89	1.27	標準偏差	0.81	0.86	0.75	0.67	0.87
中央値	4	4	4	4	4.5	中央値	5	5	5	4	4
最大値	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	5
最小値	1	2	2	2	1	最小値	2	2	3	3	2
n	109	44	35	20	10	n	108	44	35	19	10

DP7 (専門技能)						DP8 (コミュカ)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.36	4.55	4.49	3.80	4.20	平均値	4.59	4.59	4.66	4.50	4.50
標準偏差	0.93	0.92	0.84	0.75	1.17	標準偏差	0.91	0.96	0.86	0.67	1.20
中央値	4	5	4	4	4.5	中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	5	5	最大値	6	6	6	6	6
最小値	1	2	3	2	1	最小値	2	2	2	3	2
n	109	44	35	20	10	n	109	44	35	20	10



医療科学部	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.44	4.41	4.25	3.87	4.26	4.56	4.36	4.59
学生自己評価 b	4.72	4.89	4.74	4.32	4.68	4.87	4.71	4.88
差 a-b	-0.29	-0.47	-0.49	-0.45	-0.42	-0.31	-0.35	-0.29

図 3－3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評定値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

医療科学部の2020年度卒業生を対象とした、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は8項目で大きな差はなく（平均値 4.34 ± 0.94 ）、最も評価が高かったのは「DP8：患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていませんか？（コミユカ）」の 4.59 ± 0.91 であり、最も評価が低かった項目は「DP4：国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていませんか？（国際解決）」の 3.87 ± 0.97 であった（表3-6）。また各設問の中央値は、「DP1：医療人としての専門分野の学習内容について知識が習得できていますか？（専門知識）」、「DP6：患者および住民の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになっていませんか？（責任行動）」、「DP8：コミユカ」の3つが「5：概ね修得できている」と高く、他の項目は「4：最低水準は修得できている」であった。「4：最低水準は修得できている」以上の評価が最も多かったのは「DP6：責任行動」で94.4%（102/108件）であり、次いで「DP8：コミユカ」90.8%（99/109件）、「DP1：専門知識」89.8%（97/108件）であった（図3-2および表3-5）。一方、「DP4：国際解決」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が33.0%（35/106件）と他の設問に比べ多かった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、DP1～DP8の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ、概ね0.4点低い傾向を示した。若干ではあるが、就職先管理者の評価基準が高く設定されている（逆に言えば、学生の評価基準が甘い）ことが推察される。ただ、1点以上の差は無いことから、学生自己評価と就職先管理者による評価に大きな相違はないと判断できると考える（図3-3）。社会のニーズに対応した人材育成を目指し、これらの評価結果を踏まえて、今後の教育改善や学生指導を実施していくことが重要である。

3-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図3-4に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図3-5に示す。

DP1～DP8の各学科における評価の中央値は、臨床工学科の「DP4：国際解決」が3.5であった以外は、すべて4以上であった（表3-6）。臨床工学科の就職先施設管理者による評価の平均値は、DP6以外の設問について、全て他学科と比べ低い値を示した。臨床工学科の4以上の評価は76.7%、3以下の評価は23.3%であったが、他学科では4以上は85%以上、3以下は15%以下であった。臨床工学科卒業生を評価した就職先施設管理者は、他学科の卒業生を評価した管理者に比べ、より厳しく評価している結果となった。

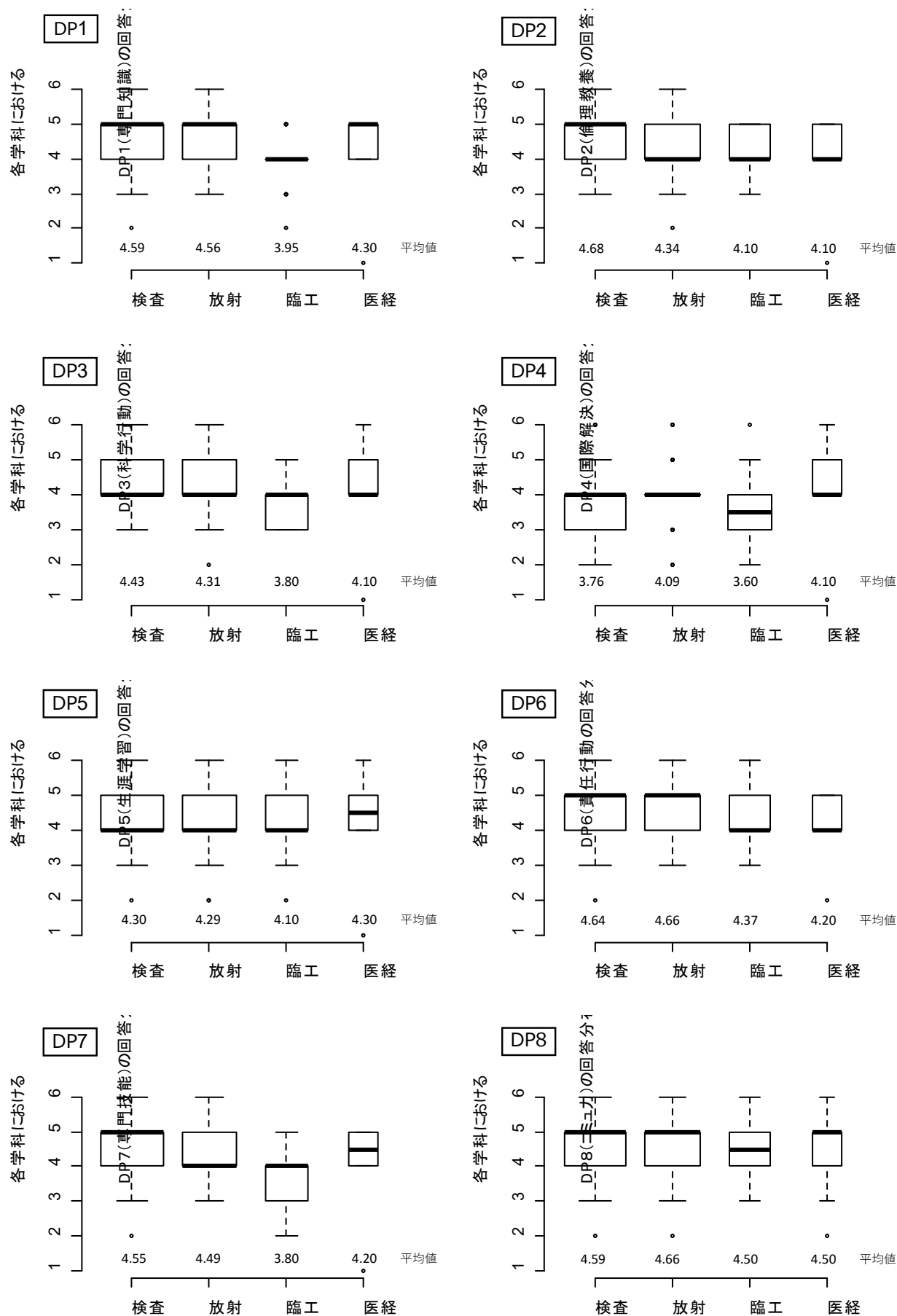


図3-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

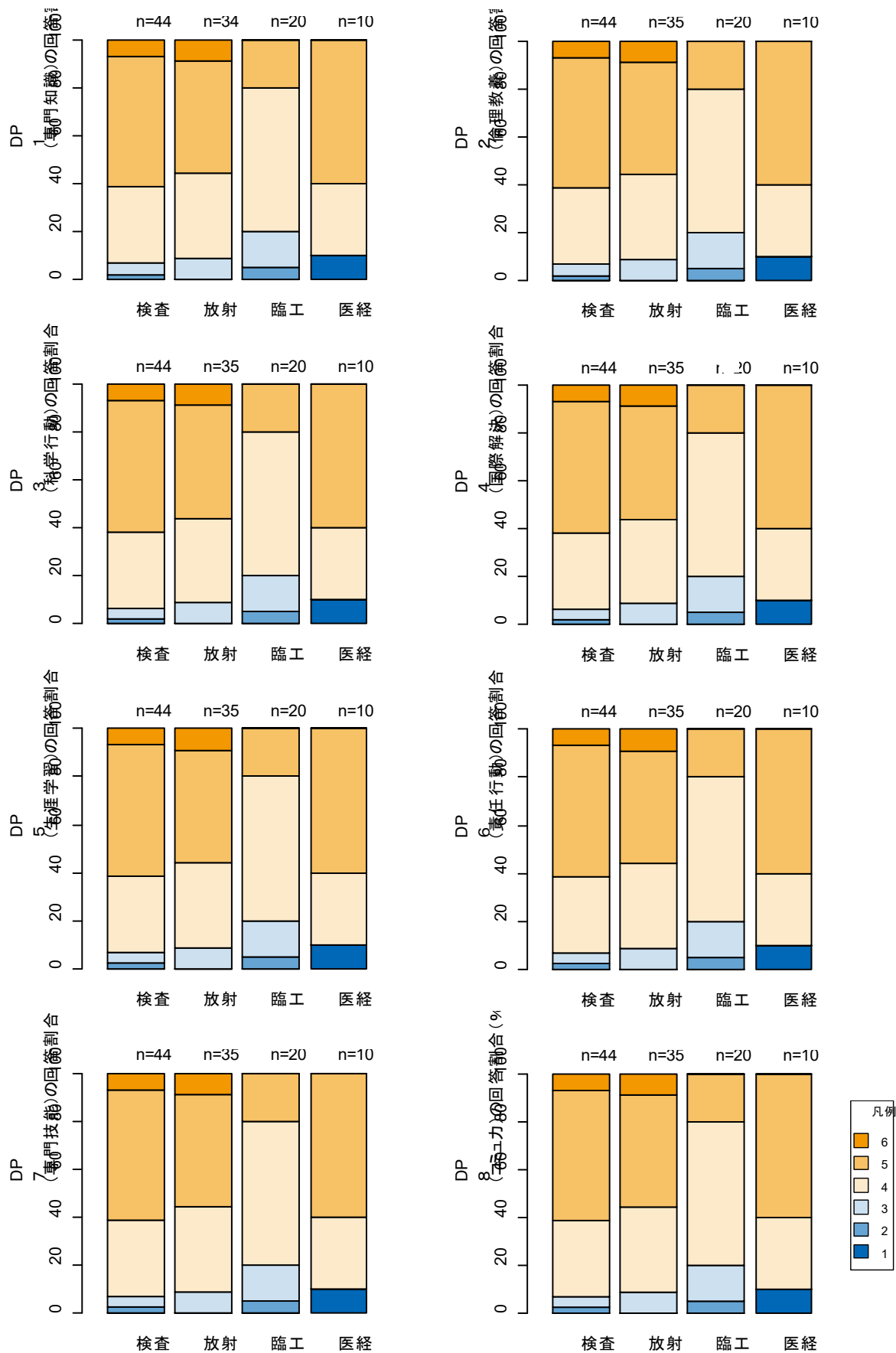


図3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合(%)の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 臨床検査学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と臨床検査学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床検査学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

DP1～DP8を学部全体の就職先施設評価の平均値と本学科

の就職先施設評定の平均値と比較したところ「DP1：専門知識」、「DP2：倫理教養」、「DP3：科学行動」、「DP6：責任行動」および「DP7：専門技能」で、学科の評価が学部の評価を上回っていた。「DP5：生涯学習」および「DP8：コミュ力」では、学科の評価と学部の評価はほぼ同じ値を示し、「DP4：国際解決」では、学科の評価は学部の評価を若干下回っていた。また、すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示しており、就職先施設評価値と学生の自己評価値はともにDP4が最も低い値となった。

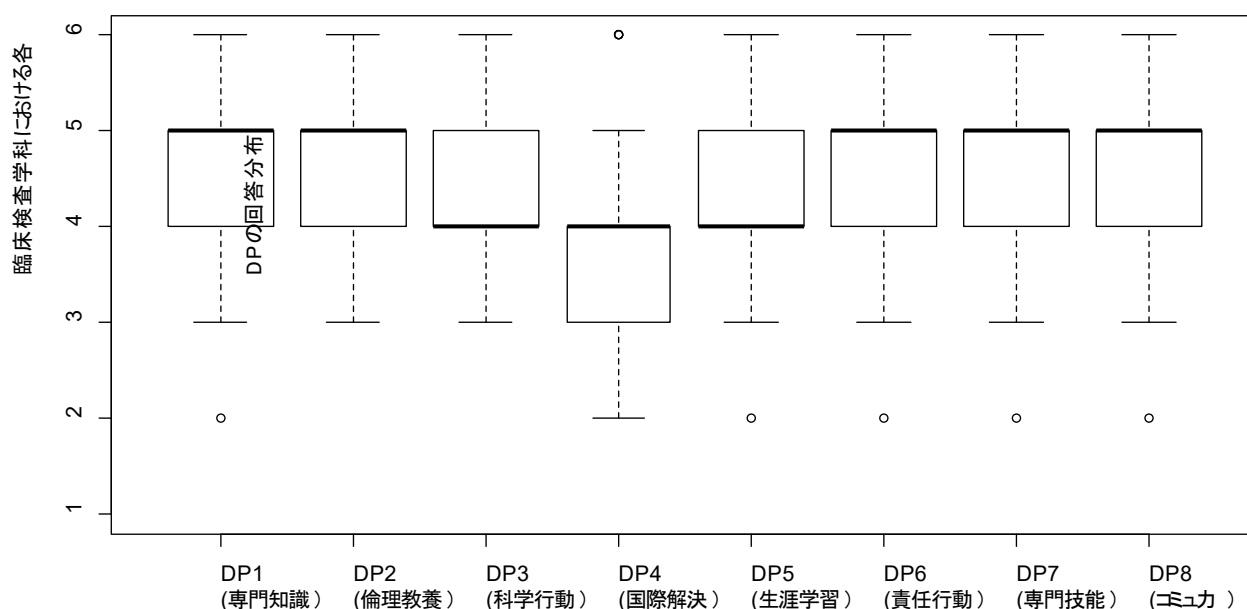


図3-6. 臨床検査学科の回答分布

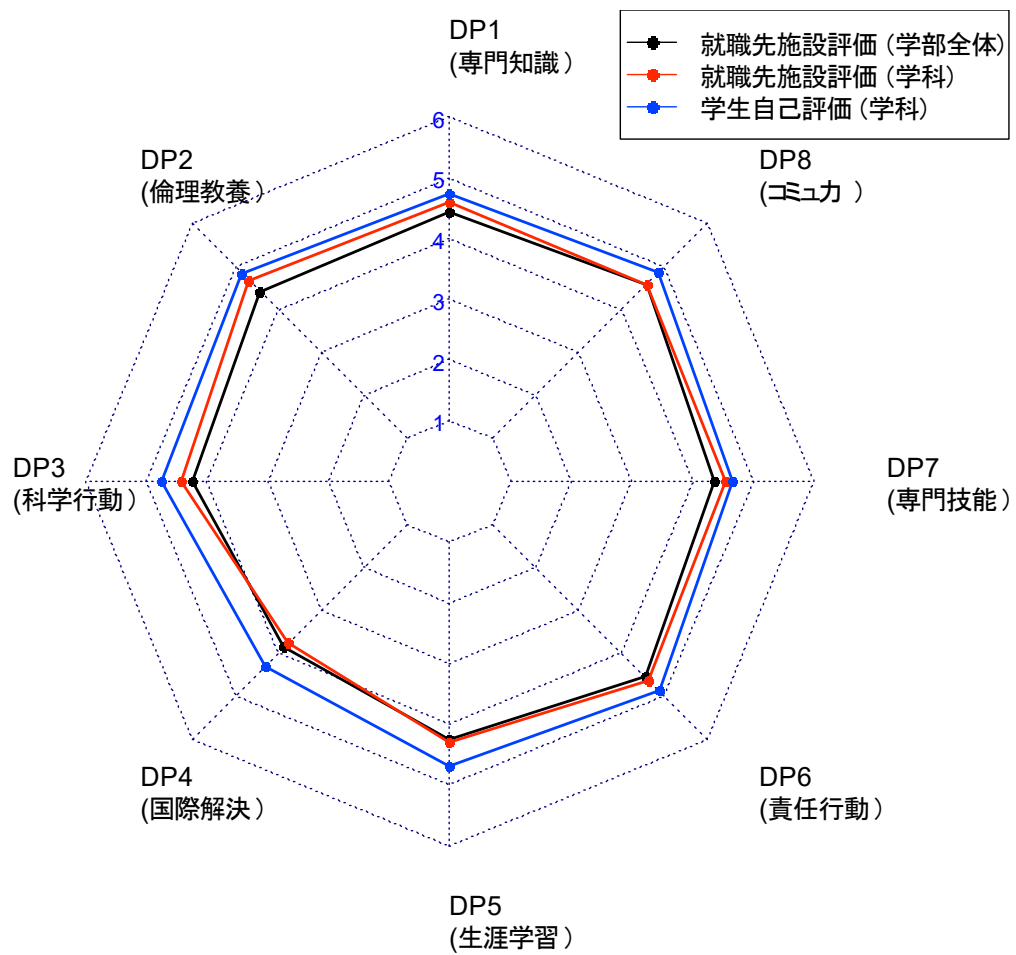


図 3 - 7. 回答結果の臨床検査学科と学部全体との比較 (平均値)

3-3-2) 放射線学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における放射線学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の就職先施設評価の平均値は学部全体よりもわずかに高い傾向を示した。また、すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示した。就職先施設評価値と学生の自己評価値はともにDP4：国際解決が最も低評価となった。

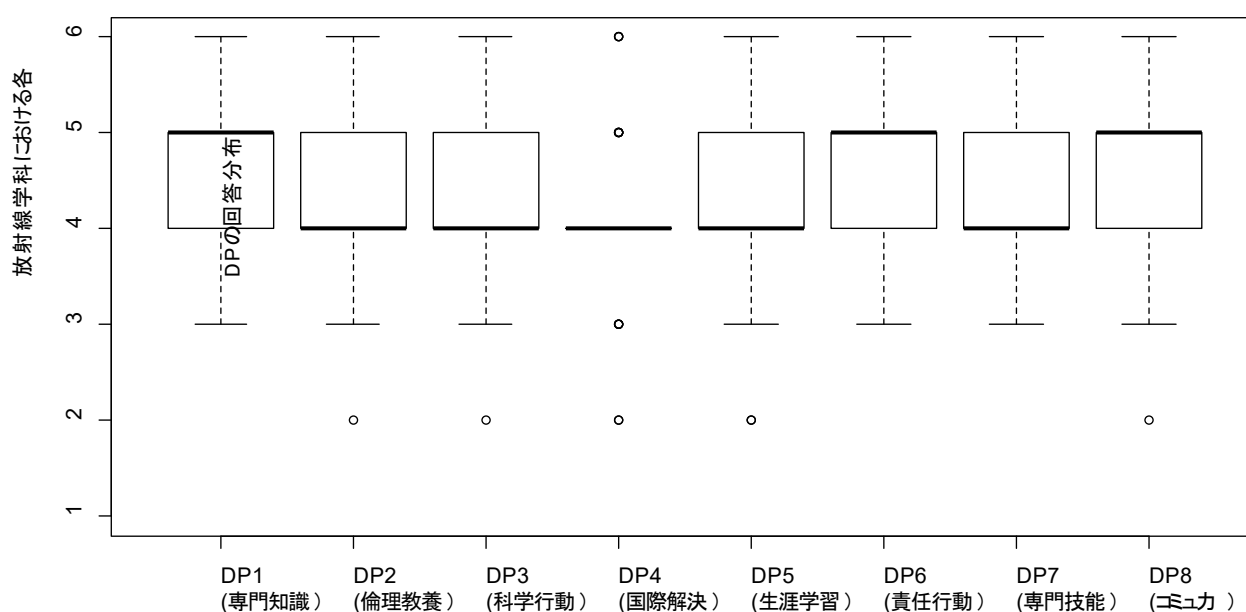


図3-8. 放射線学科の回答分布

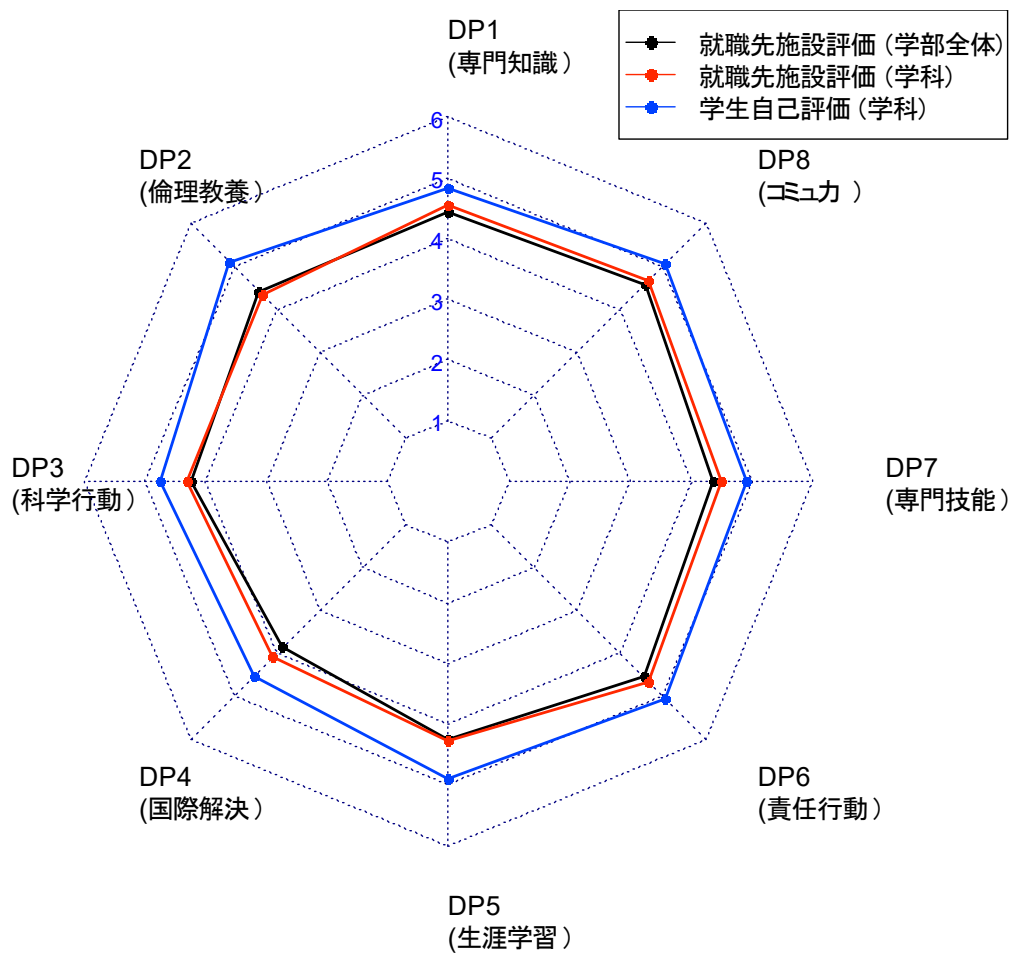


図 3－9．回答結果の放射線学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-3) 臨床工学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-10に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と臨床工学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床工学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-11に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の就職先施設評価による評定値の平均は、学部全体よりも低い値となった。逆に、全ての設問において、就職先施設評価値の学部全体平均よりも、学生自己評の平均値がおおよそ0.5点以上高かった。各設問に対する学生の自己評価の平均値と、就職先施設管理者の学科評価値の平均値が大きく乖離しており、「DP6：責任行動」「DP8：コミュカ」以外の設問ではおおよそ1点の差が生じた。この傾向は昨年度と同様であった。

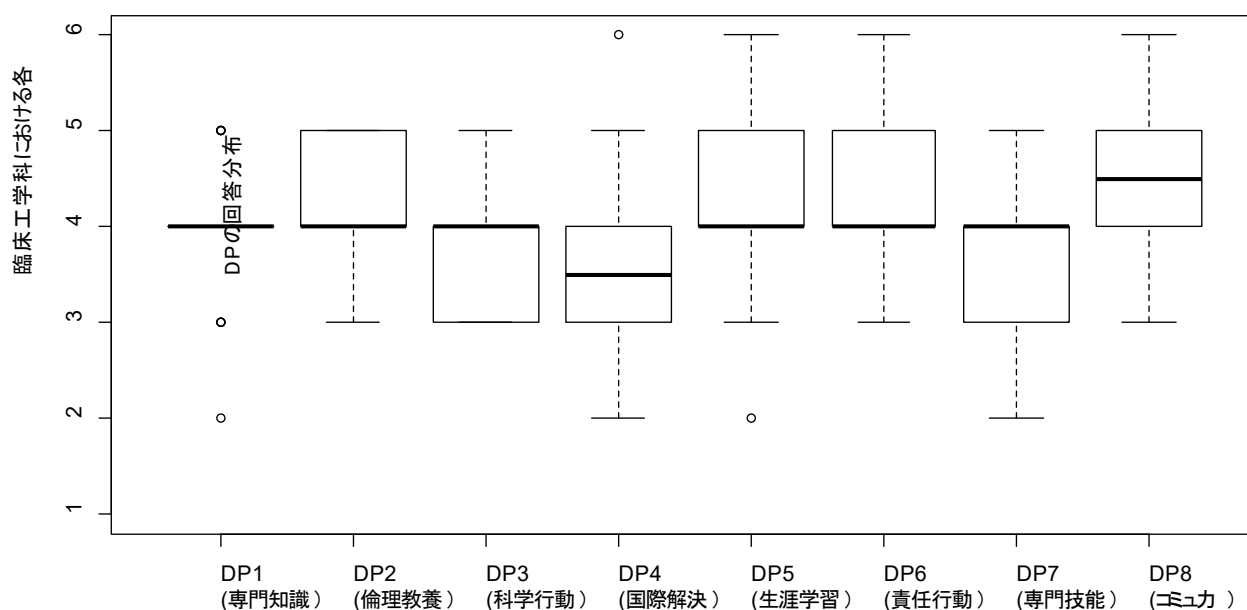


図3-10. 臨床工学科の回答分布

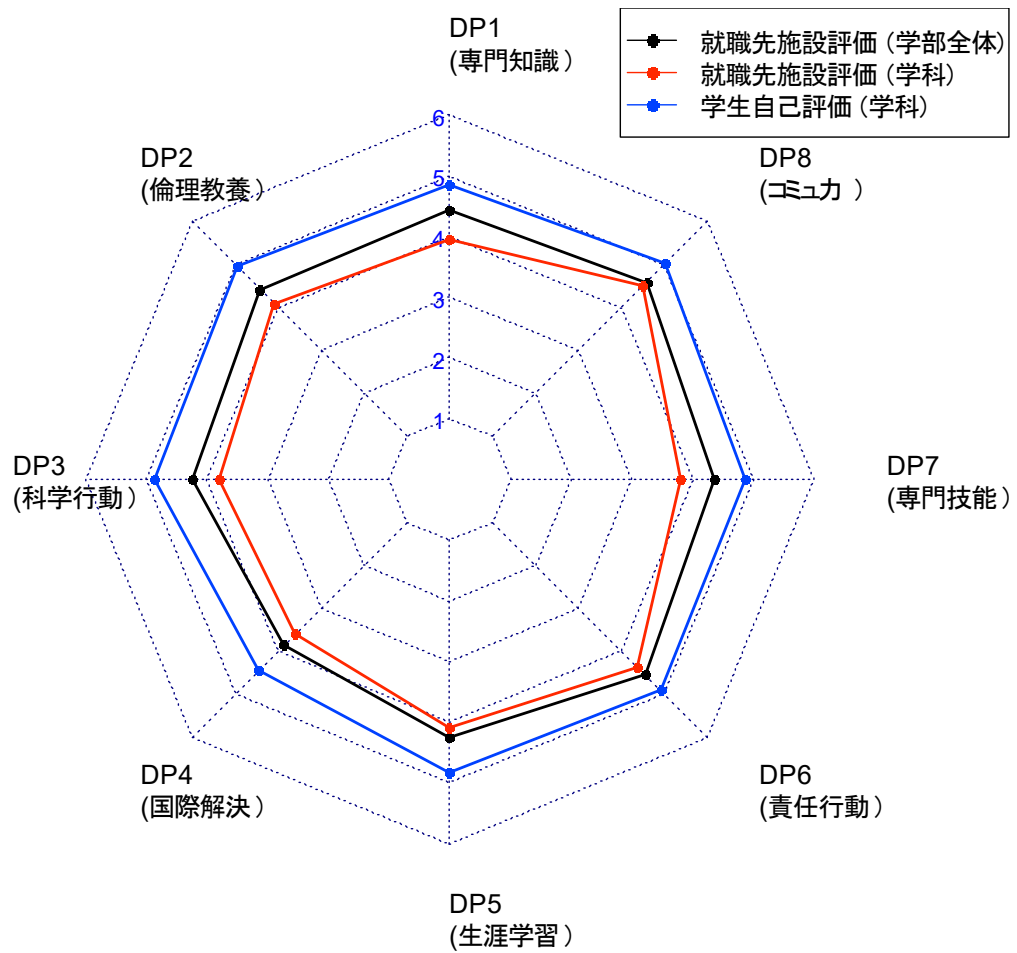


図 3-11. 回答結果の臨床工学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-4) 医療経営情報学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-12に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と医療経営情報学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における医療経営情報学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-13に示す。

医療経営情報学科は他学科と比べ、就職先施設管理者による評価の学部平均値、同学科平均値、学生による自己評価の平均値の3値について、「DP1：専門知識」「DP4：国際解決」「DP5：生涯学習」「DP7：専門技能」「DP8：コミュカ」においてはほぼ同じ値を示した。他学科に比べ、学生の自己評価と就職先施設管理者の評価が一致する傾向を示した。

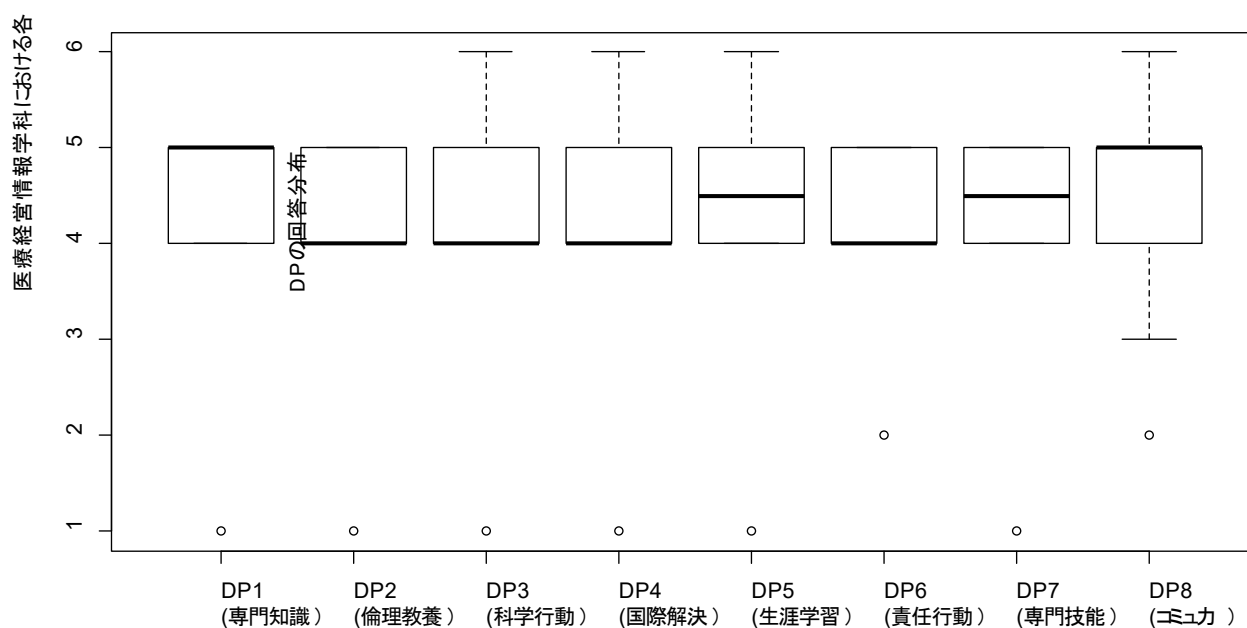


図3-12. 医療経営情報学科の回答分布

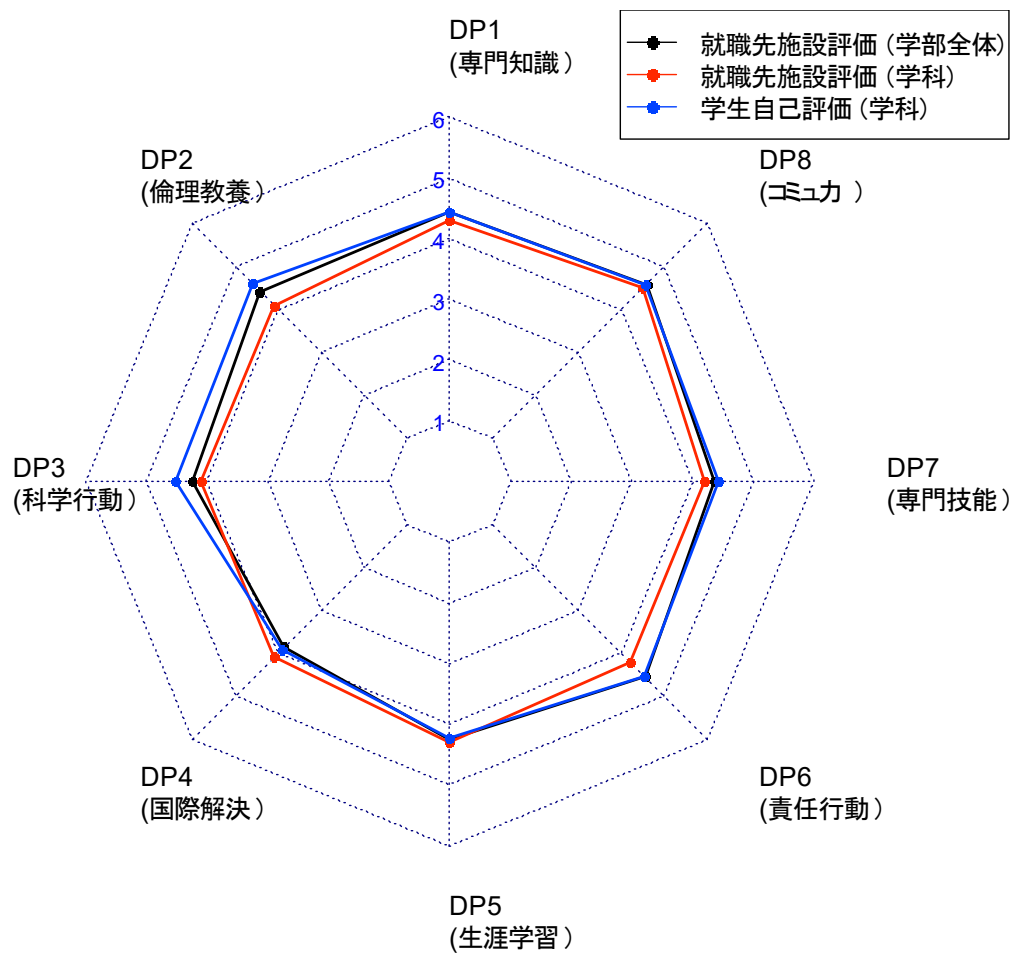


図 3 - 13. 回答結果の医療経営情報学科と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

医療科学部の2020年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式またはWeb回答方式（Google フォームを利用）のいずれかで、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者（2020年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）は、医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である（表3-1）。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である（表3-3）。2020年度医療科学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表4-1に示す。

表4-1. アンケート調査票の回収状況（各学科ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率	回収率 (昨年度)
臨床検査学科	58.4% (45/77 施設)	64.5%
放射線学科	50.7% (35/69 施設)	56.5%
臨床工学科	60.6% (20/33 施設)	71.4%
医療経営情報学科	50.0% (11/22 施設)	57.1%
計	55.2% (111/201 施設)	63.1%

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 臨床検査学科

アンケート調査項目（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）を表4-2に示す。

2020年度臨床検査学科卒業生を対象とした臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-1に示す。各設問に対する回答の割合を図4-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-3に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-3に示す。

2020 年度臨床検査学科卒業生の臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価平均値は、各設問とも就職先施設管理者より「4：最低水準は修得できた」以上の評価を得ており、中央値も、すべての設問で「4：最低水準は修得できた」という結果を得たことから、最低限の学科ディプロマ・ポリシーは達成できていることが明らかとなった。特に、D P 2 の倫理責任が最も評価平均値が高く、「4：最低水準は修得できた」以上の回答割合が 90%以上を占めていたことから、本学科の学生が物事にまじめに取り組む姿勢を評価されたと思われる。また、D P 2 以外のすべての設問においても「4：最低水準は修得できた」以上の回答割合が 80%以上を占めており、D P 3（平均値：4.58）、D P 5（平均値：4.53）、D P 1（平均値：4.51）およびD P 6（平均値：4.51）、D P 6（平均値：4.47）の順で評価平均値が高く、D P 4（平均値：4.33）の評価平均値が最も低かった。特に、D P 7 の判断解決では、「1：全く修得できていない」と回答した施設もあった。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、D P 6 の国際探求以外の設問で就職先施設評価値のほうが学生の自己評価値より低い傾向にあり、最も差が大きかったものはD P 4 の地域貢献であった。今後、地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献できる人材を育成するカリキュラムの改善が必要になると思われる。また、D P 7 の判断解決が、「1：全く修得できていない」と回答した施設があったことから、様々な問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を身に付ける教育基盤の強化も必要であると考えられた。

表 4－2. アンケート調査の設問項目（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）

D P 1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身についていますか？
D P 2 (倫理責任)	生命の尊さを深く理解し、医療人として高い倫理観と責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになっていきますか？
D P 3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになっていきますか？
D P 4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになっていきますか？
D P 5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになっていきますか？
D P 6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、グローバルに活躍する意思と積極性が身についていますか？
D P 7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身についていますか？

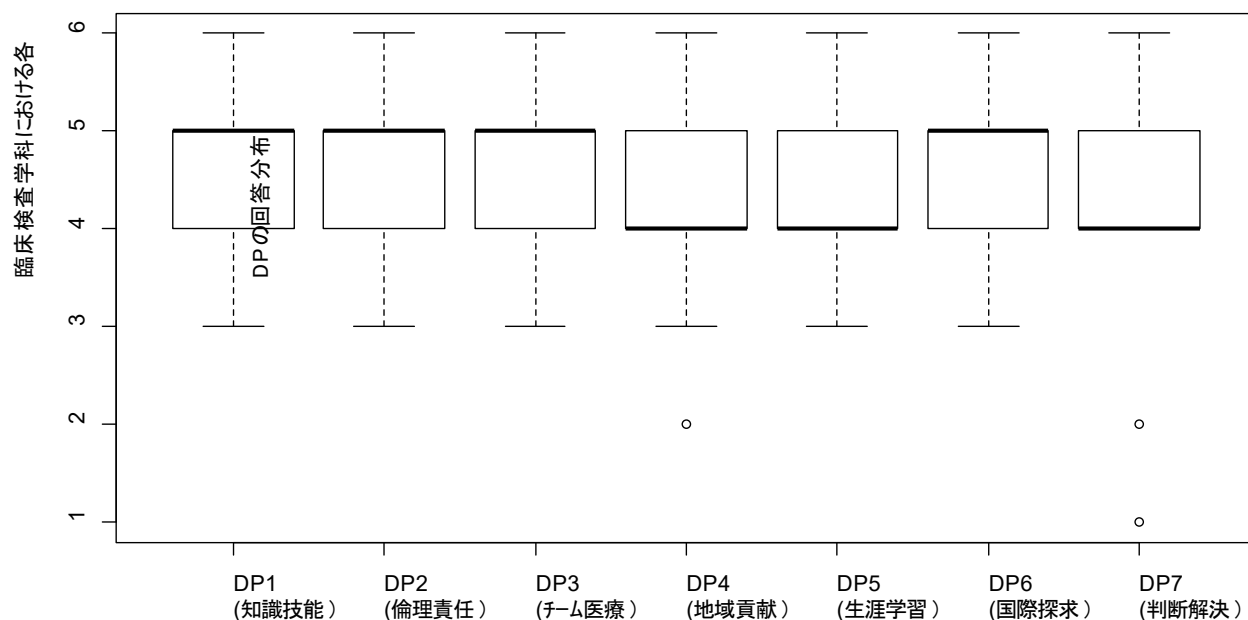


図４－１．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

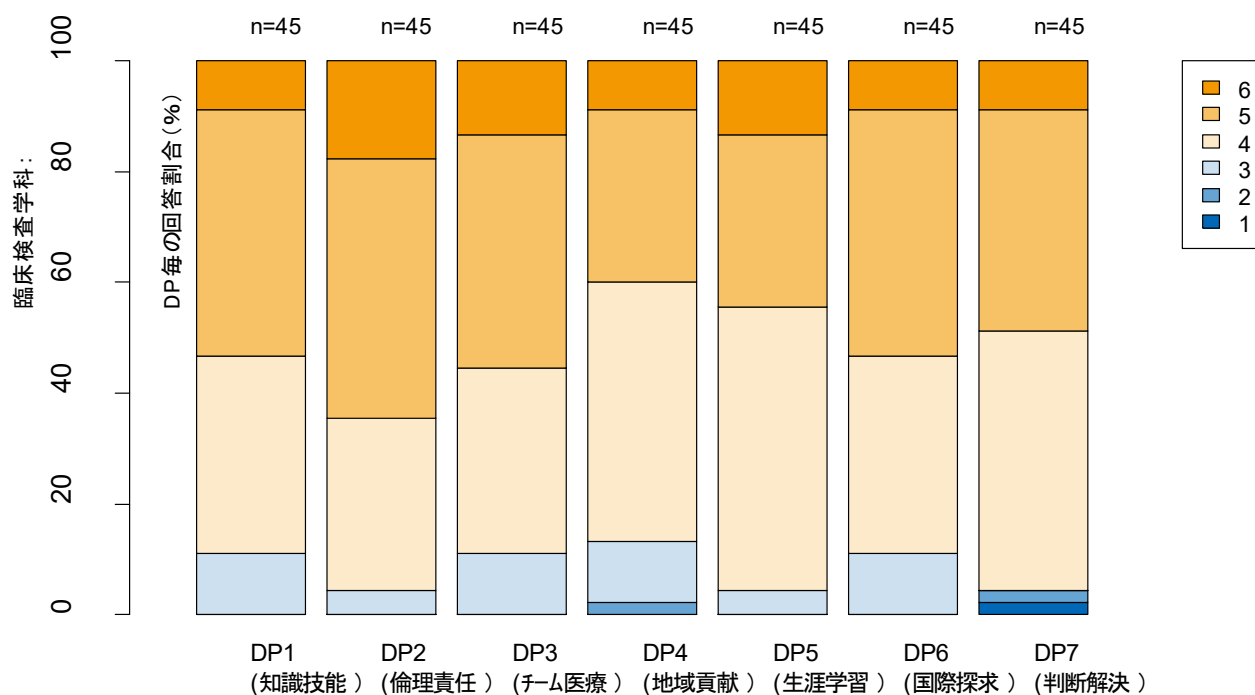
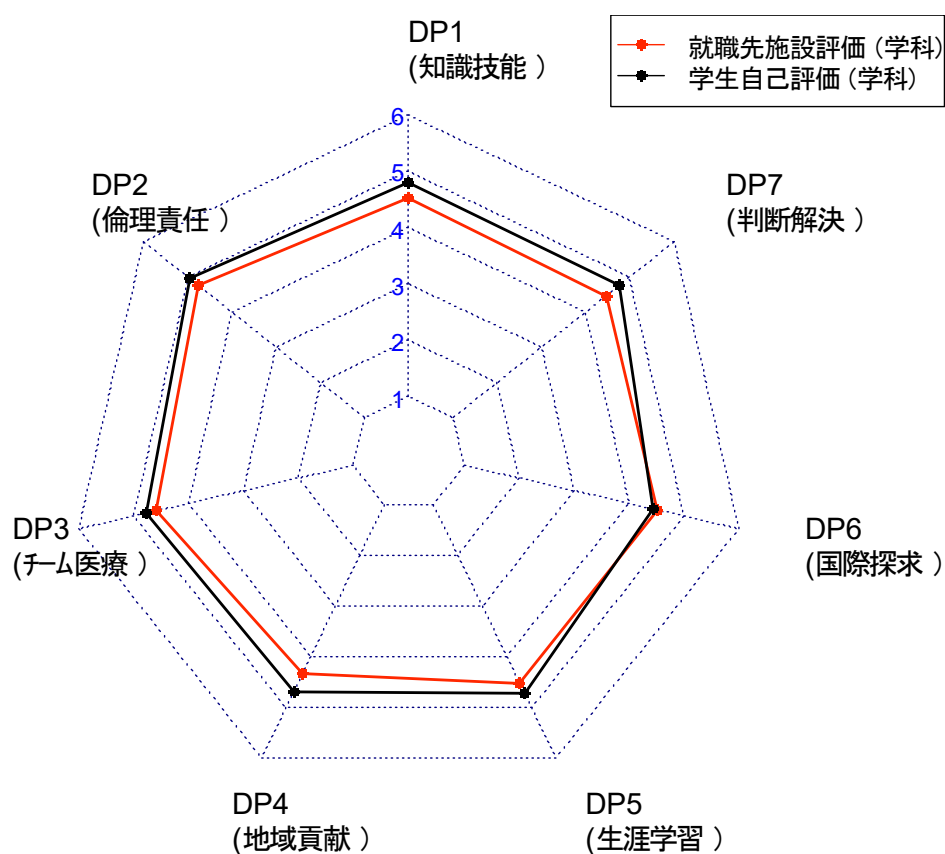


図４－２．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－3．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.51	4.78	4.58	4.33	4.53	4.51	4.47
標準偏差	0.81	0.79	0.86	0.87	0.78	0.81	0.91
中央値	5	5	5	4	4	5	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	2	3	3	1
n	45	45	45	45	45	45	45



検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	4.51	4.78	4.58	4.33	4.53	4.51	4.47
学生自己評価 b	4.81	4.97	4.76	4.68	4.72	4.44	4.78
差 a-b	-0.30	-0.19	-0.18	-0.35	-0.19	0.07	-0.32

図 4－3．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表4-4に示す。

2020 年度放射線学科卒業生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、D P 1～D P 5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。D P 1～D P 5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2021 年度放射線学科卒業生の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、表4-5の結果にて、すべての設問の中央値が「4：最低水準は修得できた」を示していることから、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況と判断できる。D P 1：倫理態度とD P 2：チーム医療については「5：概ね修得できた」～「6：完全に修得できた」の割合が約50%と他の設問よりも高く、倫理態度を身につけておりチーム医療に貢献できる人材であると評価されていることがわかる。D P 3：知能技能、D P 4：課題解決、の回答は、「4：最低水準は修得できた」～「6：完全に修得できた」と評価した施設の割合に顕著な差は無かった。D P 5：国際探求については、40%の施設が「1：全く修得できていない」～「3：ある程度修得しているが、最低水準に届かない」と回答している。今回の結果からは、D P 1：倫理態度とD P 2：チーム医療のような医療に向き合う心構えは十分に養えている。一方で、D P 3：知能技能の就職先施設評価値に低評価が一定割合あることに関しては、国家試験に合格できる程度の知識を養えているが臨床現場で活用できる知識を有していないためと想像できる。また、D P 4：課題解決やD P 5：国際探求において就職先施設評価値が低い傾向にあるため、臨床現場で生きる知識と人材を育てることが出来るカリキュラム構成が求められる。

表 4－4. アンケート調査の設問項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣い、および洗練された礼節が身についていますか？
DP 2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力が身についていますか？
DP 3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身についていますか？
DP 4 (課題解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになっていきますか？
DP 5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身についていますか？

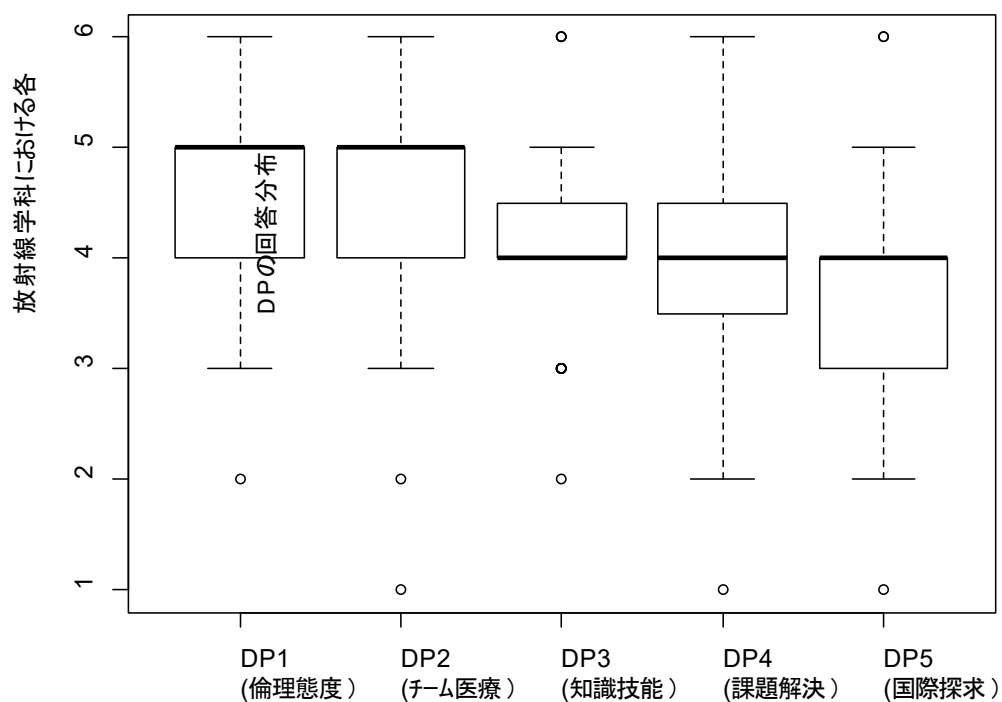


図 4－4．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

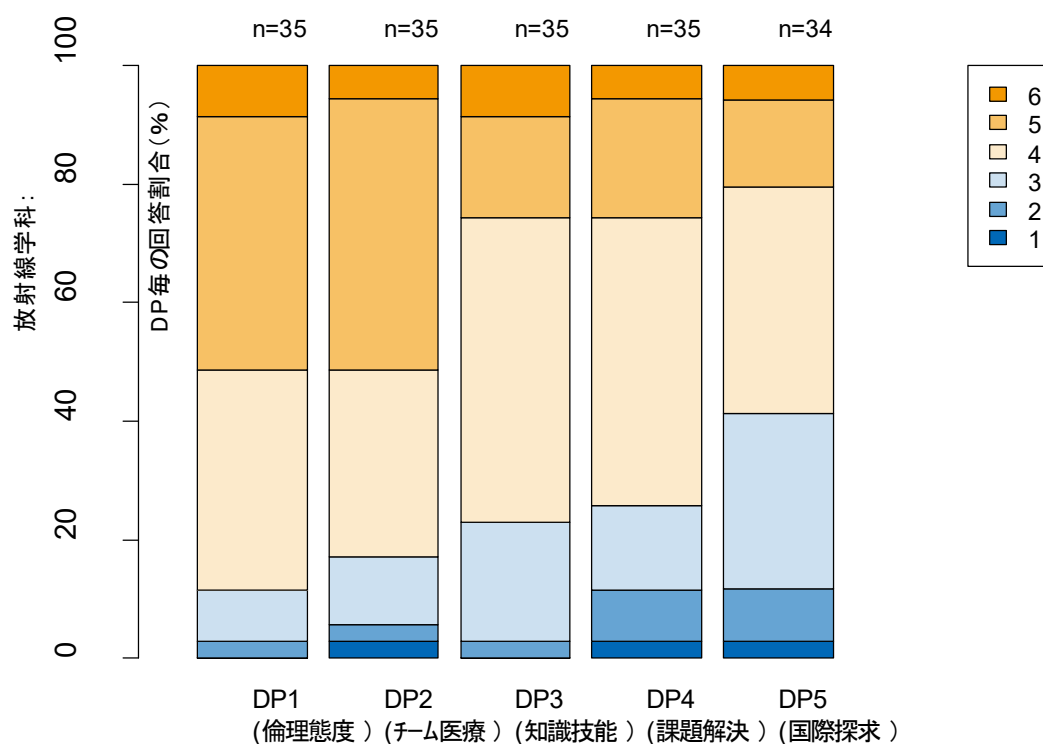
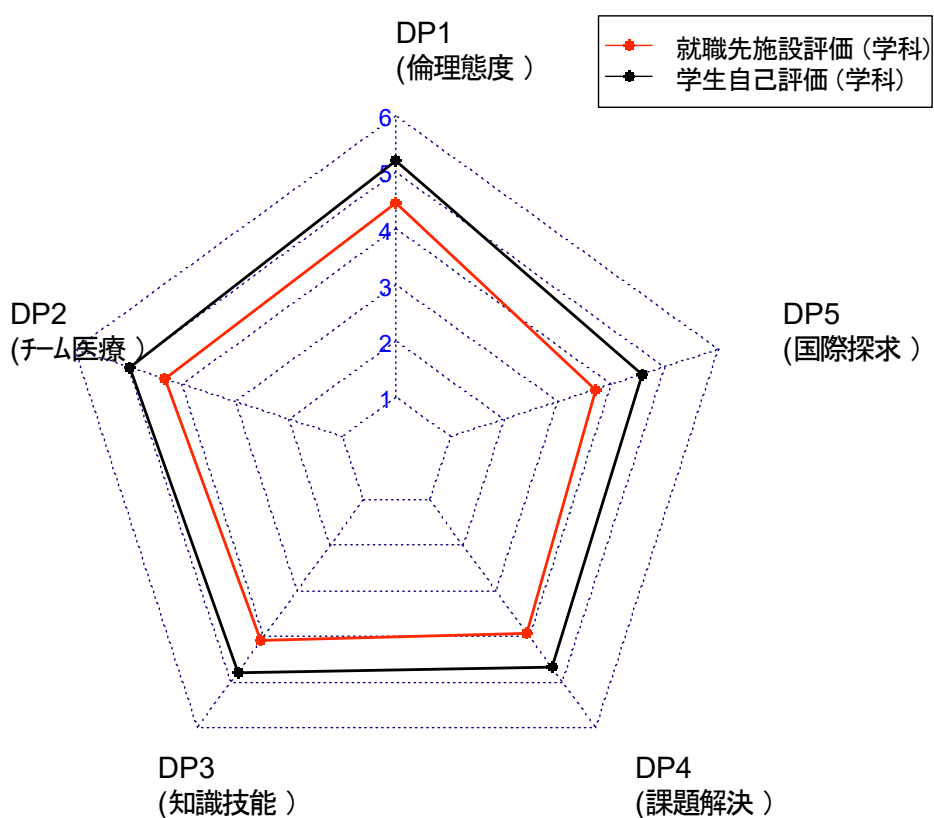


図 4－5．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－5．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	4.46	4.31	4.09	3.91	3.71
標準偏差	0.87	1.04	0.91	1.08	1.10
中央値	5	5	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6
最小値	2	1	2	1	1
n	35	35	35	35	34



放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
就職先施設評価 a	4.46	4.31	4.09	3.91	3.71
学生自己評価 b	5.20	4.97	4.79	4.67	4.56
差 a-b	-0.74	-0.65	-0.70	-0.76	-0.85

図 4－6．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-3) 臨床工学科

アンケート調査項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）を表4-6に示す。

2020年度臨床工学科卒業生を対象とした臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-7に示す。各設問に対する回答の割合を図4-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-7に示す。DP1～DP5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-9に示す。

2021年度臨床工学科卒業生の臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、DP1～DP5のいずれも評定値の平均値はおおむね「4：最低水準は修得できた」であった。中央値は「4：最低水準は修得できた」～「5：概ね修得できた」を示し、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。また、それぞれの評定値の平均値は、学生自己評価調査の平均値より約1ポイント低かった。DP1およびDP2の臨床工学技士として必要な基礎知識、そして、安全な医療のための医学知識と工学知識の統合について、卒業生は修得できていると評価しているが、現場にとっては「4：最低水準は修得できた」を少し下回ると評価されていた。他の項目に比較し低くギャップが認められており、教育内容の充実・改善を検討していく必要があると考える。DP3、DP4およびDP5の回答は、「4：最低水準は修得できた」の評価域であった。生涯学習やチーム医療は医療人としての基本的素養であるのでさらなる工夫が求められていると考える。また、就職先・地域社会のニーズに十分に答えられるように、能動的な行動を養う工夫が必要と考える。

表4-6. アンケート調査の設問項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (知識技能)	臨床工学技術領域に従事する為の基本的な知識・技能が身についていますか？
DP2 (医工統合)	安全な医療を行うために医学知識と工学知識が統合できていますか？
DP3 (生涯学習)	常に向上心を持ち、生涯学び続ける事の大切さが理解できていますか？
DP4 (チーム医療)	高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身に付け、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意志を持っていますか？
DP5 (地域貢献)	臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備えようとするとともに医学の進歩と地域・社会福祉の向上に貢献しようとする姿勢ができていますか？

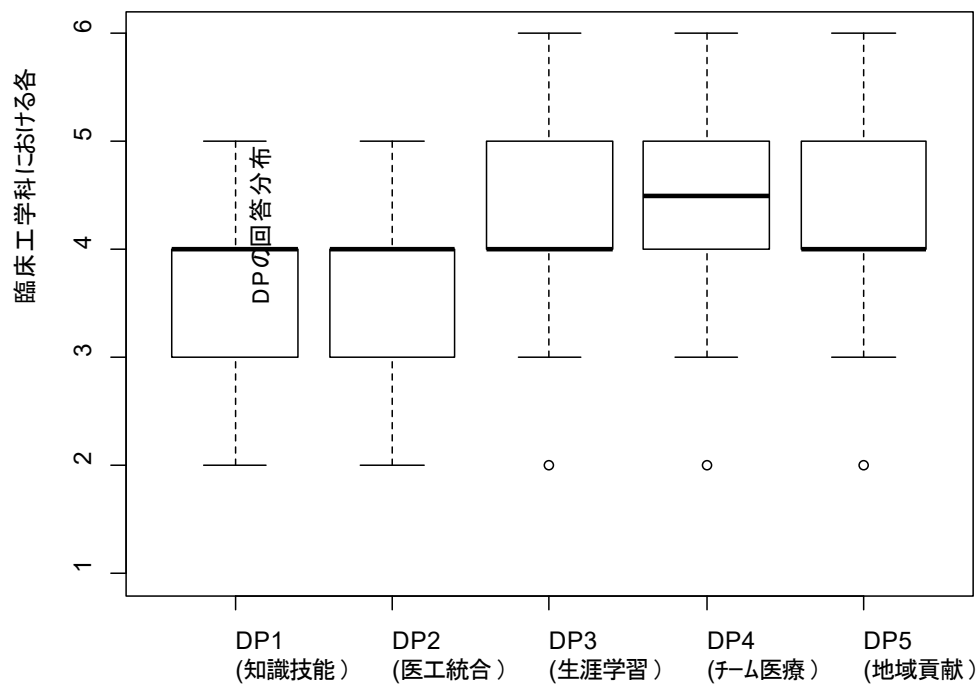


図 4-7. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

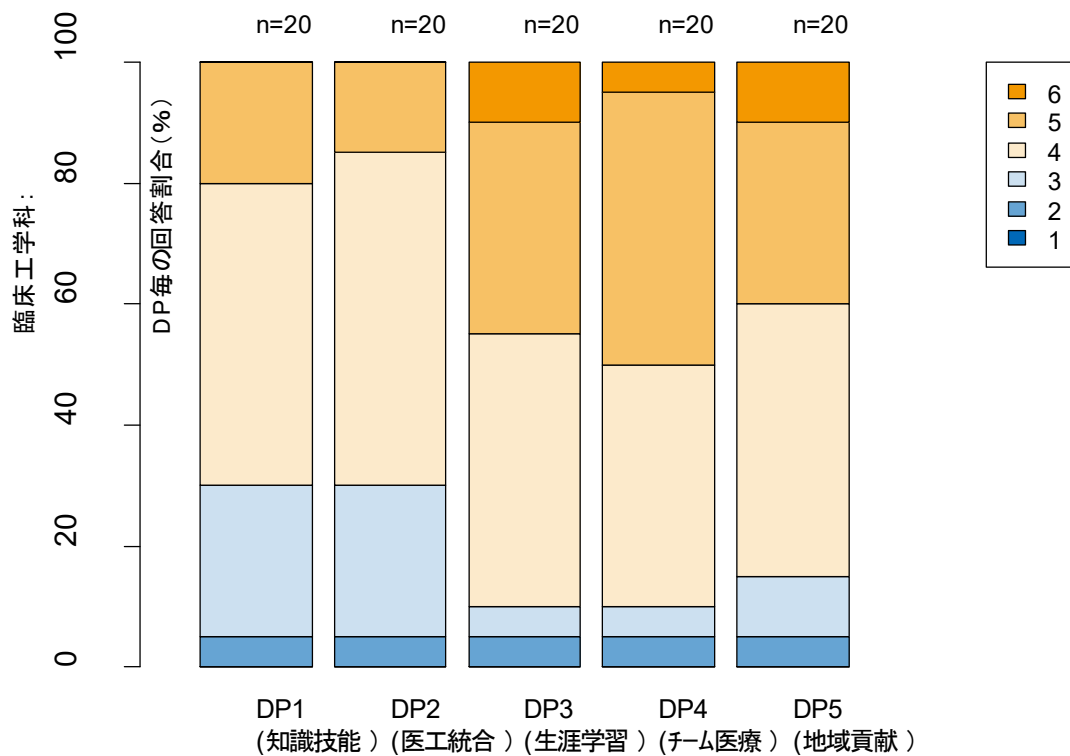
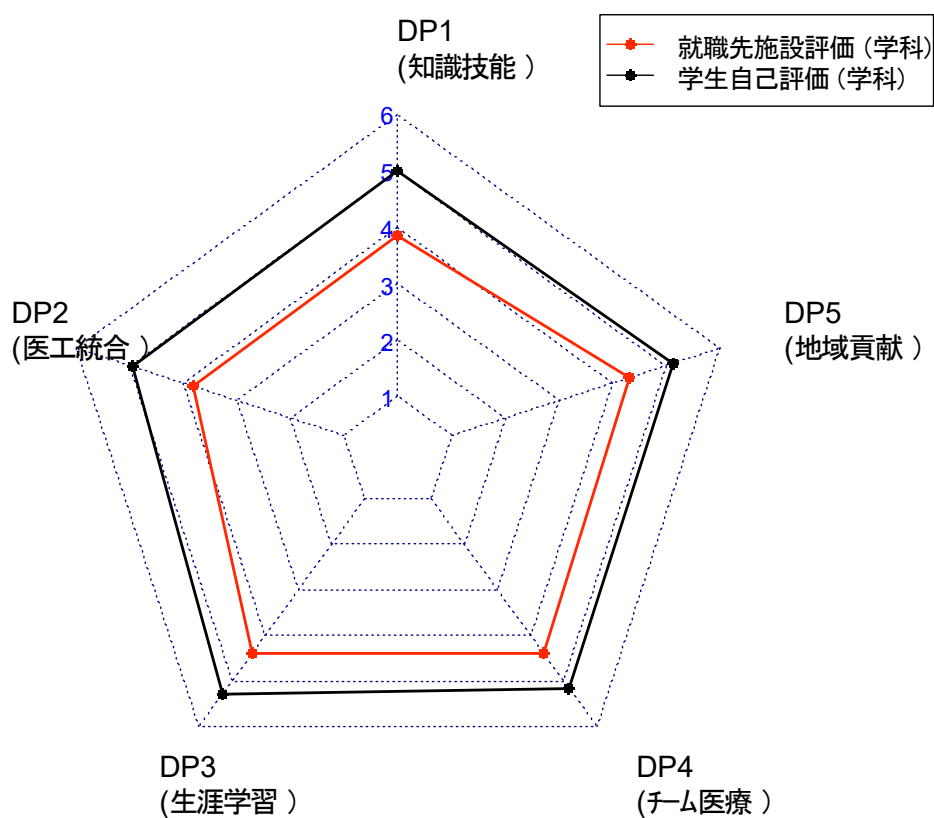


図 4-8. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－7．臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

臨工	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	3.85	3.80	4.40	4.40	4.30
標準偏差	0.79	0.75	0.92	0.86	0.95
中央値	4	4	4	5	4
最大値	5	5	6	6	6
最小値	2	2	2	2	2
n	20	20	20	20	20



臨工	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
就職先施設評価 a	3.85	3.80	4.40	4.40	4.30
学生自己評価 b	5.00	4.93	5.28	5.17	5.13
差 a-b	-1.15	-1.13	-0.88	-0.77	-0.83

図 4－9．臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-4) 医療経営情報学科

アンケート調査項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）を表4-8に示す。

2020 年度医療経営情報学科卒業生を対象とした医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-10に示す。各設問に対する回答の割合を図4-11に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-9に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-12に示す。

2020 年度医療経営情報学科4年の医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、各設問とも就職先施設管理者より「4:最低水準は修得できた」以上の評価を得ており、現行カリキュラムによって、医療事務系従事者としての要求に答える人材育成ができていたことが確認できた。「DP3:生涯学習」は、他の設問に比べ高い評価（中央値は「5:概ね修得できた」）を得た。2020 年度4年生は全員が診療情報管理士認定試験に合格しており、学修継続の態度が身に付いていると考えられる。就職先施設評価の平均値が3.5以下と低くなったのは「DP7:経営管理」であった。次いで、「DP1:分析管理」、「DP2:チーム医療」の平均値が4.0以下で低くなった。「DP7:経営管理」と「DP2:チーム医療」については、入職後に経験を積むことによってスキルアップする類の項目であり、低評価となっていることが考えられる。「DP1:分析管理」については、施設側の期待の高さに対し学生に身につけているスキルの低さが原因と考えられ、統計やデータ分析の教育により一層注力すべきである。

就職先施設管理者による評価と学生自己評価を比較すると、全ての設問で就職先施設管理者による評価は、学生自己評価よりも低い値となった。特に、「DP1:分析管理」、「DP2:チーム医療」については学生評価の平均値と1ポイント程の差があり、学生が身につけている以上施設側は身につけていないと厳しく評価された。「DP6:医療情報」および「DP3:生涯学習」は、学生自己評価と就職先施設管理者評価の差が0.2ポイント程と最も小さかった。本学科の医療情報教育が医療現場より評価された結果と考えられる。

表４－８．アンケート調査の設問項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (分析管理)	医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力が身についていますか？
DP 2 (チーム医療)	医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についていますか？
DP 3 (生涯学習)	社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲が身についていますか？
DP 4 (診療報酬)	診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力が身についていますか？
DP 5 (診療管理)	診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達していますか？
DP 6 (医療情報)	医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達していますか？
DP 7 (経営管理)	経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力が身についていますか？

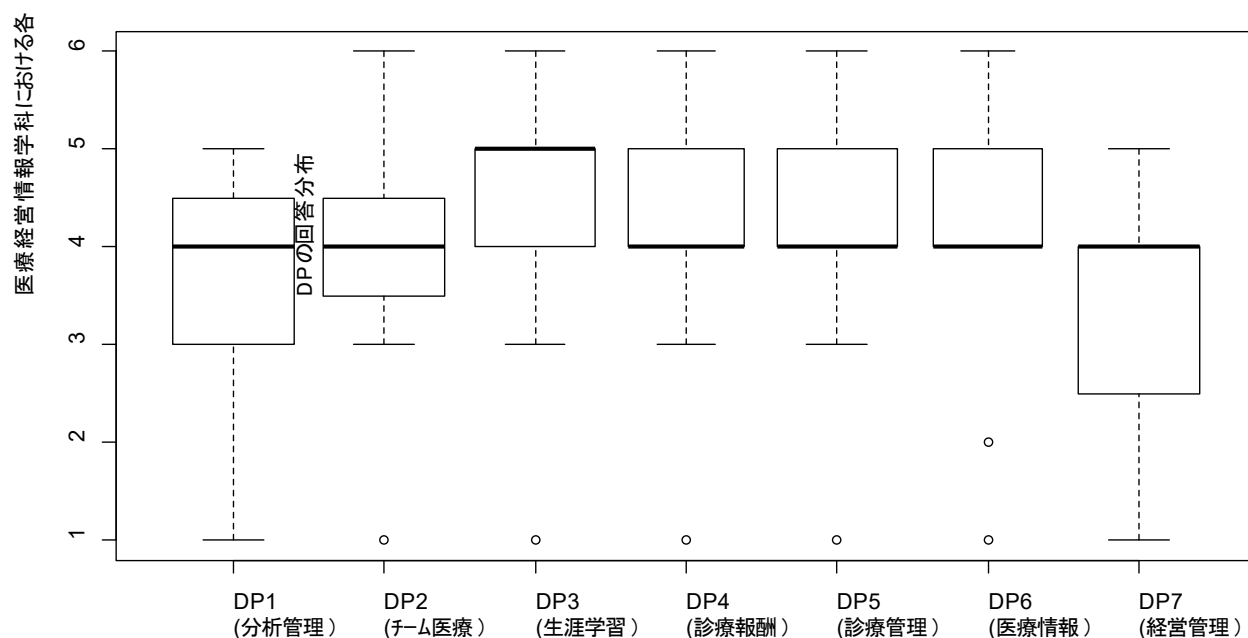


図 4－10. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

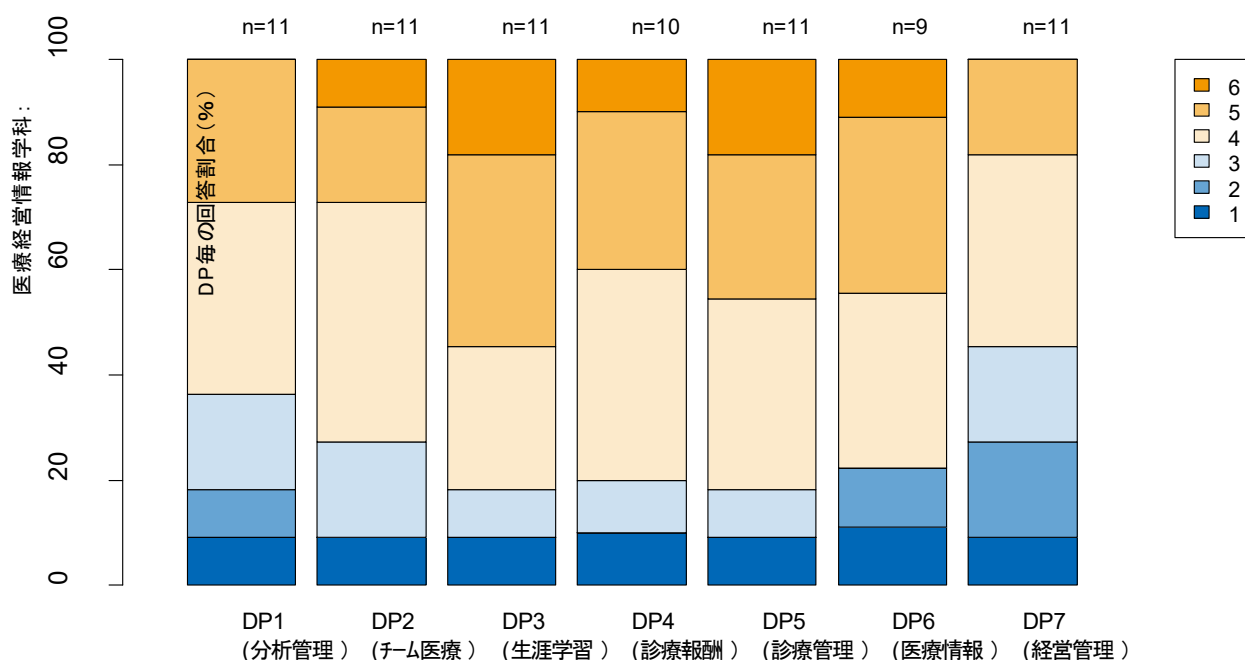
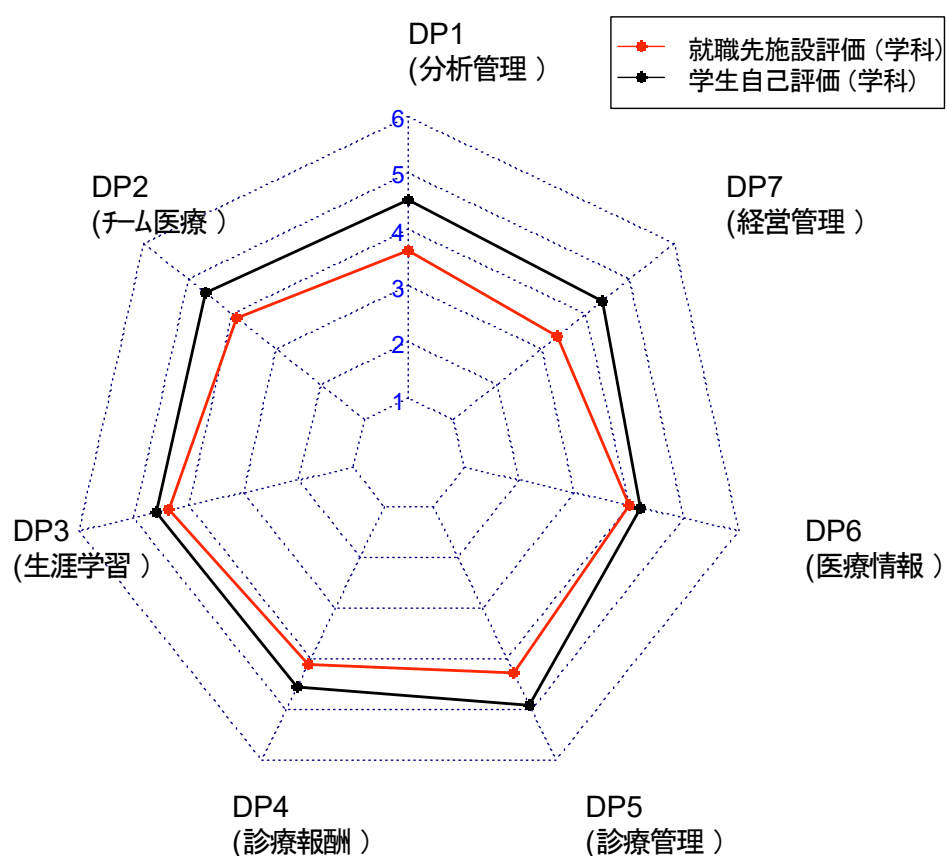


図 4－11. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－9. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

医経	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	3.64	3.91	4.36	4.10	4.27	4.00	3.36
標準偏差	1.23	1.24	1.37	1.30	1.35	1.49	1.23
中央値	4	4	5	4	4	4	4
最大値	5	6	6	6	6	6	5
最小値	1	1	1	1	1	1	1
n	11	11	11	10	11	9	11



医経	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	3.64	3.91	4.36	4.10	4.27	4.00	3.36
学生自己評価 b	4.53	4.60	4.58	4.56	4.91	4.21	4.37
差 a-b	-0.90	-0.70	-0.22	-0.46	-0.63	-0.21	-1.01

図 4－12. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

5. 参考資料

2020 年度医療科学部卒業生の就職先施設に対し、臨床検査・放射線・臨床工学・医療経営情報の各学科は図 5－1 の依頼文を送付し、医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

●●●●●●●●病院
採用ご担当者様

2021 年 8 月吉日

藤田医科大学
医療科学部長 齋藤 邦明
IR 推進センター長 橋本 修二

医療科学部卒業生に関する到達度アンケート
ディプロマ・ポリシーに関する調査のお願い（依頼書）

平素は本学の教育に関しまして格別なご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、本年度までに貴院でご採用頂きました本学の医療科学部卒業生（臨床検査学科、放射線学科、臨床工学学科、医療経営情報学科）を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の医療科学部及び学科別の教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養が貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身につけているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、卒業生は卒業時に 4 年間で振り返り、ディプロマ・ポリシーの自己評価を終えております。卒業後教員月～数年経過したこの時点で、本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を評価して頂きたく、お願い申し上げます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますようお願い申し上げます。この調査は、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業に沿って実施するものです。業務多忙になお手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

－ 記 －

調査内容：本学卒業生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー到達度評価調査
回答期間：本書到着日～2021 年 9 月 30 日（木）
調査対象：2021 年 4 月採用～入社 3 年目相当の本学卒業生
同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答

同封書類：
1. 医療科学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通
2. 学科別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通
3. 返信用封筒：1 通

お問い合わせ窓口：
藤田医科大学 事務局 総務部 学生支援課 キャリア支援担当
(TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

■Google フォームによる WEB 回答のご案内■

本学では SDGs 推進、環境負荷低減、コスト削減の観点からペーパーレス化を推奨しております。当該のアンケート用紙につきましても Google フォームにてご回答いただけるよう回答フォームをご用意しております。

以下の QR コードをスマートフォン等から読み取りご回答いただく事も可能です。WEB 回答へのご協力の程よろしくお願い致します。

対象職種	回答フォーム QR コード
●●●●●●●●	

図 5－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（臨床検査学科・放射線学科・臨床工学科・医療経営情報学科）